

NTT ソフトウェア

仮想環境セルフポータルソリューションの展開に加え、
Android やクラウドにも対応

オープンソースソフト推進室設立から6年を経過したNTTソフトウェア。OSSを活用したプロジェクトは、総売上の半分を超えるまでに拡大している。社内プロジェクトへの活用推進、Tomcatコミュニティへの貢献、KVMを活用した仮想環境セルフポータルソリューションの開発、さらにはAndroidやクラウドなど新しい分野のOSSにも積極的に対応するNTTソフトウェアの取組みを紹介する。

安心できるサポート基盤をもとに
ミドルも含めたOSS活用が浸透

NTTソフトウェアは、2004年にオープンソースソフトウェア(OSS)への対応を強化・加速する専門組織「オープンソースソフト推進室」(以下、OSS推進室)を設立。以来今日までOSS関連技術者の育成、技術の蓄積・提供、及び応用技術による新商品の開発、NTT OSSセンタと連携したNTTグループへの活用支援、さらにはOSSコミュニティへの貢献など、幅広い活動を展開してきている。

OSS推進室の岡あゆみ主任エンジニアは、「OSSを活用したシステム開発は年々増加し、今ではLinuxや開発環境のみでなくAPサーバやDBサーバなど中核となるミドルウェア領域にまでOSSの活用が浸透してきています。OSS推進室設立当初は、技術者が自分の責任のもとでOSSを活用していましたが、NTT OSSセンタが設立されてからは、同センタのトータルサポートサービスをバックに、お客様にも自信を持ってOSSを活用したシステムを提案できるようになりました」と述べて

いる。

Tomcatコミュニティに
積極的に貢献

NTTソフトウェアでは、OSSコミュニティにも積極的に貢献している。特にオープンソースのAPサーバ「Tomcat」については、NTT OSSセンタと密に連携して、Tomcatの品質向上・機能強化に取り組んでいる。

カスタマイズアプリケーション事業ユニットの高橋栄二主任エンジニアは、「Tomcat6では、レプリケーション機能など一部の品質が安定せず、なかなかNTT OSSセンタのOSSVERTに組み込むことができませんでした。本年1月にStable版がリリースされたTomcat7については、早期にOSSVERTに組み込み、NTTグループに推奨できるよう、β版の段階から品質向上に取り組んでいます。今年度は、Tomcatコミュニティへ、バグ報告8件/パッチ提供8件(採用7件)、機能拡充パッチ提供2件



NTTソフトウェア(株)

【前列左】 技術センター オープンソースソフト推進室 室長 徳植 拓麻氏
【前列右】 同 主任エンジニア 岡 あゆみ氏
【後列左】 SI&NI・ソリューション事業グループ カスタマイズアプリケーション事業ユニット 主任エンジニア 高橋 栄二氏
【後列右】 同事業グループ 基盤システム事業ユニット エンジニア 薄井 孝幸氏

(採用2件)の投稿を行いました。過去からの総計では約30件投稿しています」と述べている。

KVMを活用した仮想環境セルフ
ポータルソリューション

NTTソフトウェアは、昨年11月開催した「NTT SOFT Solution Fair 2010」において、KVMをベースとしたプライベートクラウドを、効率的に運用するための仮想環境セ

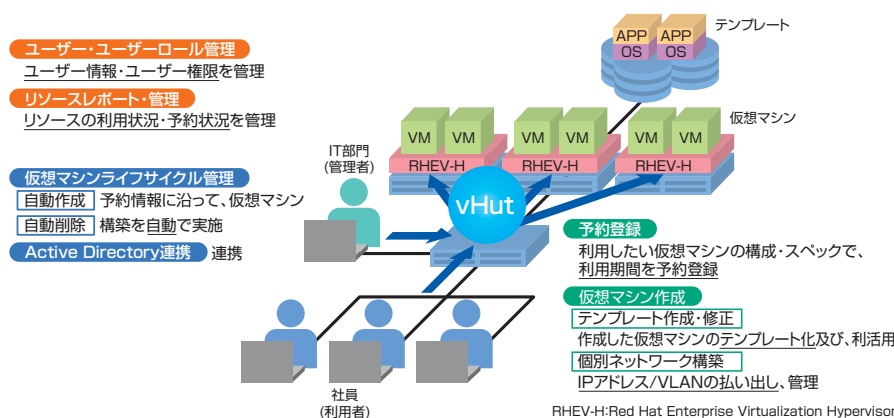


図1 仮想環境セルフサービスポータルソリューション「vHut」の概要

以下のような点があげられる。

- ・ IT部門の仮想化構築・運用コストの削減
- ・ 仮想サーバ利用申請から利用までの時間短縮が図れる
- ・ 作成された環境をテンプレートとして資産化し、ノウハウとして活用できる

NTTソフトウェアでは、社内導入事例を踏まえ、vHutのソリューション化を進めている。

Android、クラウドなど新しい分野のOSSにも積極的に対応

NTTソフトウェアは、Androidやクラウドなど新しい分野のOSSにも積極的に対応している。OSS推進室の徳植拓麻室長は、「最近、Android案件やクラウド案件など、新しいOSSを活用する案件が多くなっています。従来のOSSの活用は、OS/DBMS/APサーバなどで成熟した商用製品のレイヤに対して如何にOSS製品を活用してコスト削減などを行えるかがポイントでした。しかしAndroidやクラウド関連などの最新分野は、OSSだからこそ実現できることが多々あり、OSSへの取り組みが新しいフェーズに入ったと捉えています。しかし、サポート体制などの課題もあり、しっかりと取り組んでいくことが重要だと考えています」と、今後のOSS推進室の展開について述べている。

お問い合わせ先

NTTソフトウェア(株)
技術センター オープンソースソフト推進室
TEL：03-5782-7037

セルフサービスポータルソリューション「vHut」のプロトタイプを公開した。

vHutは、Red Hat Enterprise Virtualization と連携してプライベートクラウドを運用するためポータルサイト（ミドルウェアとして、Apache HTTP Server、Apache Tomcat、PostgreSQLを活用）で、複数の仮想マシンを組み合わせたシステム全体の管理が、直感的なユーザーインターフェースで容易に操作できるのが最大の特徴である。vHutには、以下の機能が実装されている。

・テンプレート作成・編集

直感的なインターフェースによって作成した仮想マシン（VM）をテンプレートとして作成できる

・仮想マシンライフサイクル管理

予約登録された利用日程に沿って、仮想マシンを自動生成・自動削除することができる

・仮想マシン予約登録機能

必要な仮想マシンをオンデマンドで予約ができる

・仮想マシン個別ネットワーク構築

仮想マシンごとにIPアドレス/VLANの払い出し、管理ができる

・リソース管理

リソース（仮想マシン数、CPU周波数、メモリ容量、ストレージ容量、VLAN数）の利用状況・予約状況を一目で把握することができる

・ユーザー・ユーザーロール管理

ユーザーの状況（認証・認可、ユーザーが予約・作成した仮想マシン）を管理でき、またユーザーごとのvHut利用機能を管理できる

基盤システム事業ユニットの薄井孝幸エンジニアは、「vHutは、もともと社内の研修環境として構築したプライベートクラウドを管理・運用するために開発したものです。vHut適用により、仮想マシン管理の自動化による研修担当者・運用者の作業コストを削減することができます。また、クラウド開発環境に適用することで、利活用可能なテンプレートによる社内ノウハウの共有が可能になります」と述べている。

vHutの主な導入メリットとして